

開講期	2025年度前期			単位数	2.0単位
科目[授業]名	1155 働く女性の歴史			開講形態 (隔週 偶数 = 隔週2コマ)	週間授業
種別	なし			定員	
履修可能学年	全学年履修可	重複履修	×	全学開講	○
曜日時限	木曜5限				
教室	D202教室				
代表教員	堀川 祐里				
担当教員	堀川 祐里				
テーマと到達目標	日本の産業革命期から現代に至る働く女性の歴史を考察します。 ジェンダー史の中でも特に労働史の基礎的知識を身につけること、さらに講義で取り扱うそれぞれの時期における労働環境の特徴について説明できるようになること、最終的に、日本経済についてジェンダー視点から自分の考えを述べるができるようになるのが到達目標です。				
概要	みなさんにとって、男性と女性が平等に取り扱われることは当然のことですか？ 本科目では、日本において女性の労働環境がどのように変遷してきたかをたどっていきます。そして、歴史を学ぶことの意義が、年号や重要語句を覚えるといった受験勉強のようなものではなく、現代社会の問題を解決する方法であるという理解へと発展させられることが重要です。高校生までに得た日本史の知識をジェンダーの視点から相対化出来ることを目指してほしいと思います。歴史科目が不得意でも、少し興味があれば問題ありません。 「社会政策」「社会福祉」「労働と経済」は最も関連が強い科目となります。これらも履修することで理解が深まります。				
対面科目/オンライン科目	対面科目				
授業計画				担当教員(複数の教員が担当する場合のみ記載)	授業方式
第1回	オリエンテーション：授業計画、成績評価、注意事項等に関する説明。				対面授業
第2回	ジェンダーの視点から見た経済史				対面授業
第3回	官営富岡製糸場と工女				対面授業
第4回	産業革命と労働運動の高揚				対面授業
第5回	工場法の成立と繊維産業の変遷				対面授業
第6回	女性の高学歴化と「職業婦人」				対面授業
第7回	戦時中の日本経済と社会政策の在り方①				対面授業
第8回	戦時中の日本経済と社会政策の在り方②				対面授業
第9回	戦前期の日本経済のまとめ				対面授業
第10回	労働組合の歴史				対面授業
第11回	戦後の労働状況と労働運動				対面授業
第12回	高度経済成長期と「専業主婦」①				対面授業
第13回	高度経済成長期と「専業主婦」②				対面授業
第14回	国連女子差別撤廃条約の批准と男女雇用機会均等法の制定				対面授業
第15回	まとめ：現代の労働環境を歴史的視点から考える				対面授業
成績評価の基準	2種類の評価方法の総合評価であり、その内訳は、授業内におこなう小テスト45%、オンラインツールを用いた課題や質問への回答55%です。 ※小テストは、行う当日の授業までのレジュメや資料等の参照可とします。予告なしで複数回行います。 ※通信状況のエラー等で小テストや課題に答えられない、というトラブルについては対応しません。 ※欠席時数が全授業時数の3分の1を超えたものは単位修得の資格を失います。				
履修にあたっての留意事項	授業に関する詳細や注意事項は初回の授業で説明するため、この講義の受講の意思がある場合、また受講するか否かを検討している場合には、第1回目の授業に出席してください。 皆勤が原則であるため、出席自体は評価の対象とはなりませんが、授業では自分で「メモ」を取ることを重要視しています。 なお、各回の授業内容は受講生の理解を促進するために、順序を入れ替えることがあります。 最後に、授業中、他の受講生の迷惑になる行動については慎んでください。特に私語は厳禁とし、私語を行っている受講生には教員が退室を促すことがあります。				

オンライン授業方式(同時双方向型・オンデマンド型)の詳細	オンラインで授業（同時双方向型ないしオンデマンド型）を行う可能性もあります。初回授業で、それぞれの授業回の確定した授業方式を伝えるため、この講義の受講の意思がある場合、また受講するか否かを検討している場合には第1回目の授業に出席してください。
【種別】人数制限（抽選）授業の優先条件	

◆教科書・教材

教科書以外に必要な教材費用	なし。		
教科書	教科書は用いず、毎回の授業で配布するレジュメ、資料、参考文献等に基づいて講義を進めます。受講生には「メモ」をとることを習慣づけ、自分だけのノートを作成していくことを心がけてほしいと思います。なお、ポータルサイトでの資料配布を行うため、授業の前にはポータルサイトを確認し、適宜資料の印刷を行っておいください。	教科書(ISBN)	なし。
参考文献	金子貞吉（2005）『戦後日本経済の総点検』学文社。 久留島典子・長野ひろ子・長志珠絵編（2015）『ジェンダーから見た日本史』大月書店。 堀川祐里（2022）『戦時期日本の働く女たち ジェンダー平等な労働環境を目指して』晃洋書房。 堀川祐里（2024）『労働環境の不協和音を生きる 労働と生活のジェンダー分析』晃洋書房。	参考文献(ISBN)	なし。